

**WEEKLY SIGNAL**

平成31年4月26日(金) 1472号

上田八木証券株式会社

**来週の市場とレート予想**

	5/6(月)	5/7(火)	5/8(水)	5/9(木)	5/10(金)
無担保O/N			△0.150% ~ 0.001%		
銀行券		+ 5,200	+ 5,000	+ 5,000	+ 4,000
財政他		△ 20,600	△ 7,000	△ 40,000	△ 1,000
資金需給		△ 15,400	△ 2,000	△ 35,000	+ 3,000
主要要因		国債発行(2年) 交付税特会借入・償還		消費税・法人税・保険揚げ 国債発行(10年) 国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(6M) 交付税特会借入・償還
オペ期日		CP等買入 △ 100			
オペスタート	祝日	国債買入 + 5,000			
(日本)			日銀金融政策決定会合議事要旨 (3月14、15日分) 日銀 マネジャー・ベース(4月) 日銀 営業毎旬報告 (4月30日現在)		
(海外)	米 ファイデルフィア連銀総裁、講演 欧 総合PMI(4月、改定値) 欧 サービス業PMI(4月、改定値)		米中貿易協議(ワシントン)	米 アトランタ連銀総裁、講演 米 シカゴ連銀総裁、講演 米 PPI(4月) 米 貿易収支(3月) 米 失業保険申請件数 (5月4日終了週)	米 アトランタ連銀総裁、講演 米 CPI(4月) 米 財政収支(4月) 英 GDP(1月-3月、速報値)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は週初、398兆5,500億円から始まった。その後、同残高は24日の税揚げを主因に397兆円台まで減少したものの、その後は国債買入等により増加に転じ、週末には398兆2,800億円となった。  
無担保コールON物は、先週に引き続き軟調な展開となり、22~25日の同加重平均金利は△0.077%~△0.075%のレンジで推移した。大型連休前11日積みとなる26日も軟調な地合は変わらず、△0.074%だった。ターム物は大型連休を跨ぎショートタームを中心に△0.06%~△0.04%の水準で出合が見られた。  
24~25日に開催された日銀金融政策決定会合では、これまで「当分の間」維持するとしていた長短金利の水準を「少なくとも2020年春頃まで」とし、政策金利のフォワードガイダンスを明確化した。また、強力な金融緩和の継続に資する諸措置の導入を決定した。  
来週は国内では、金融政策決定会合議事要旨公表(3月14~15日開催分)(9日)、海外では米中貿易協議(ワシントン)(8日)、米CPI(10日)などがある。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<CP>**

今週の入札発行総額は約1兆9,100億円で、週間償還額(約1兆1,800億円)に対し大幅な発行超となった。発行市場は、月末スタートで1兆300億円と期落ち(約9,400億円)を上回る発行であった。幅広い業種から大型案件がオファーされ、マーケットは活況を呈した。市場残高は、先週末の19兆2,116億円から増加し、月末時点では19兆円台後半に達すると思われる。発行レートは、投資家・ディーラー等の積極的な購入ニーズから、引き続き0%からマイナスでの出合いであった。CP等買入オペが、23日に1,500億円でおファーされた。結果は、按分レート△0.002%・平均落札レート0.001%と、前回(按分△0.003%・平均0.001%)比で按分レートが若干上昇した。来週の償還総額(5/7~5/10)は、6,000億円程度となっている。発行市場は大型連休前に資金手当てをした企業も多く、落ち着いたマーケットとなると思われる。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが引き続き強く、0%からマイナスレートでの出合いとなろう。26日、5月のCP等買入オペのオファー日程と金額の変更が発表され、16日(2,500億円)と28日(2,000億円)の2回となった。

**<TDB>**

今週の国庫短期証券市場は、週末からの大型連休を前に発行がなく閑散としていた。セカンダリー市場では3M物は△0.165%程度の出合が見られた。再来週は8日と10日に3M、9日に6Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

銘柄先決めGC取引は週初△0.105%~△0.115%から始まった。月末初の取引となる26日受渡しは、前場△0.10%台後半~△0.20%近辺から出合いが付き始めたが、後場△0.10%近辺まで上昇した。7日受渡しは△0.10%~△0.12%近辺で取引された。SC取引では10年353回債、354回債のbidが多く、週前半△0.10%台前半~半ば。国債買入オペがオファーされた7日受渡しでは、353回債が△0.20%台前半、354回債は△0.20%台半ば~後半の出合いが一時見られた。その他2年398・399回債、5年137・138・139回債、10年340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。